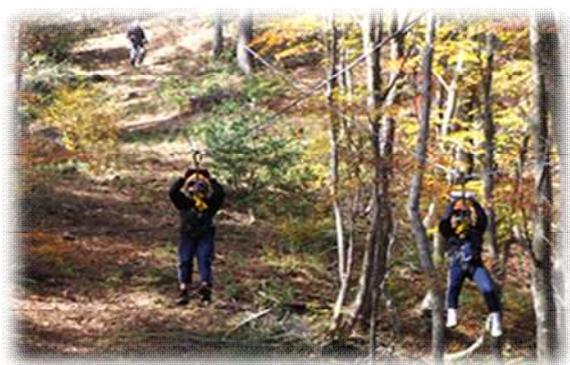


令和2年度

北
広
島

ふるさとゆめプロジェクト

事業報告書



令和3年3月

北広島ふるさとゆめプロジェクト応援隊

目 次

1.	はじめに	1
2.	令和2年度「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業 実施計画	2
3.	6年生「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」	
	（1）実施計画	3
	（2）活動の様子	5
	（3）講演会	14
	（4）児童アンケート結果	16
4.	5年生「ふるさと夢体験」	24
5.	「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を振り返って	33
6.	おわりに	36

はじめに

わが国では、急速に少子高齢化が進み、本格的な人口減少社会を迎えるなか、地方の若い世代が大都市部に流出することにより、さらに予想を超えるスピードで少子化が進み、人口減少も加速しています。

こうした状況を受け、国は「地方創生」を重要政策として掲げ、人口減少の克服に取り組むなか、北広島町では平成29年に「第2次北広島町長期総合計画」を策定しました。教育部門で「夢と希望、豊かな学び合いにあふれたまちづくり」を掲げ、「ふるさとに誇りを持ち、たくましく生きる子供・若者・大人の育成」に取り組んでいます。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業では、地域の皆様のご協力をいただきながら、学校間の垣根を越えた同学年が同じ活動や体験をする取組を行っています。そうした取組を通して、町内には多くの魅力や素敵な大人がたくさんいることを子供たちは感じています。この事業を将来の定住や北広島町を応援する気持ちを持った子供がたくさん現れることに繋がりたいと思っています。「ローマは一日にして成らず」といいます。直ぐに結果が表れるものではなく、地道な活動の積み重ねですが、子供たちの北広島町での様々な体験がこの町への愛着へと繋がると信じています。

昨今の急速な社会変化や、今年度のコロナウイルス感染症により、先を見通すことが困難な社会となり、社会の変化に柔軟に対応ができる人材を育成していくことがますます求められています。またコロナ禍の中で農村の素晴らしさが見直されています。そういう時代だからこそ地域の様々な大人と触れ合い、人と協働できる人材の育成は重要で、このふるさと夢プロジェクト事業はまさにこういった人材を育てることのできる事業だと考えます。

この北広島町の宝である子供達が、ふるさとの自然、伝統、文化を継承し、大人になって次代の北広島町を担う子供たちを育てるという好循環を作り出すことが今を生きる私たち大人の使命とっております。

町民の皆さま、地域の皆さまの益々のご協力やご支援をよろしくお願いいたします。

令和3年3月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊
隊長 箕野 博司
(北広島町長)

令和2年度 北広島「ふるさと夢プロジェクト」実施計画

1 「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業の実施及び応援隊について

事業目的:「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさに住みたい、ふるさに帰りたくなる子どもの育成」

北広島町では少子高齢化が進み、将来の人口減に起因する町の活力低下が懸念されている。町がすすめる若者定住を主要施策として、全町あげて定住対策に取り組むことにした。教育委員会では、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさに住みたい、ふるさに帰りたくなる子どもの育成」を目的とし、定住対策の関連事業として「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を実施する。

この事業は、北広島町で「こんなことができる、こんなものもできる」と思える魅力ある事業を行い、子供たちに町の魅力を再認識させ、将来「北広島町に住みたい、北広島町のために貢献したい」と思える子供の育成を図る。事業を通して全町で同じ学年が同一体験をすることで、町内には多くの友達がいることを認識させ、仲間意識の醸成や閉塞感の払拭につなげる。

事業主体 北広島町
主 管 北広島町教育委員会
組 織

町長を応援隊長とする。

副町長・教育長を副隊長とする。

隊員として、町長部局の総務課・まちづくり推進課・商工観光課の職員、教育委員会の職員。

(本年度については、教育委員会事務局及び校長会が主体となって事業を行う。)

教育委員会事務局を事業事務局とする。また、学校現場から数名の校長及び教諭を隊員とする。

将来的には、地域が主体となる組織とする。

【応援隊】

役 職	氏 名	
隊長	箕野 博司 (町長)	
副隊長	中原 健 (副町長)	池田 庄策 (教育長)
隊員	畑田 正法 (総務課長)	沼田 真路 (まちづくり推進課長)
	中川 克也 (商工観光課長)	教育委員会職員
	佐々木 昭典 (小学校代表)	山田 正彦 (中学校代表)
事務局	植田 伸二 (事務局長)	西村 豊 (事務局次長)
	三宅 克江 (事務局員)	日高 典子 (事務局員)

2 具体的な事業の目的と今年度の取組について

年度当初に、5・6年年生で実施する2つの事業を、教育委員会と一緒に9小学校が分担して諸計画を作成した。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」は、一堂に会することはせず、リモートでの講演会実施、学校ごとのロケット製作・発射となった。また、5年生の「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」は実施できず、学校ごとの「ふるさと夢体験」をすることになり、町内で体験・見学学習をすることになった。

年度当初に計画していた2つの事業の目的は、次のとおりである。

■ 6年「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」

- 植松電機 植松社長の講演を通して、夢を持ち実現することのすばらしさを学ばせる。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高めさせる。
- ロケット製作・発射の共同体験を通して、町内の児童間の親睦を図る。

■ 5年「民泊体験～北広島のよさを満喫しよう～」

- 民泊の1つのプログラムとして、子供達が主体的に活動できるウォークラリー体験を通して、八幡地域の自然の豊かさ、地域の方々との触れ合いの楽しさを学ばせ、ふるさとの良さを実感させる。
- 町内の児童が協働してウォークラリー体験をすることで、必然的に課題解決する力や協働する力を養う。
- ウォークラリー体験等を通して、町内児童間の親睦を図る。

北広島ふるさと夢プロジェクト事業（6年生）実施要項 ～「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」～

- 1 日 時 令和2年9月30日（水）9：40～11：20〔講演会〕
場 所 北広島町内小学校及び教育長室

2 目 的

- 植松電機 植松努代表取締役の講演を通して、夢をもち実現することのすばらしさを学ぶ。
- ロケットを製作し発射させるという感動体験を通して、科学への興味関心を高める。

3 対象児童 小学校6年生

	芸北小	大朝小	新庄小	川迫小	八重小	八重東小	壬生小	本地小	豊平小	計
児童数	11	14	8	6	23	27	26	12	31	158

4 日 程

(1) 講演会の方法－WEB講演会<ツール－ZOOM> 各学校で視聴

(2) 講演会の流れ

◆接 続（9：25～入室可能） ※事前に町教委と確認する。

◆開会行事（9：40～9：55）

＜司会進行－八重東小（中村教諭）＞

①開会挨拶（応援隊副隊長） ※町教委が連絡調整をする。

②校長代表挨拶（担当校長〔八重東小－佐々木〕※講師紹介を含む

◆植松電機の植松努代表取締役講演会（9：55～10：55）

◆質疑応答（10：55～11：10）

◆閉会行事（11：10～11：20）

①閉会挨拶・謝辞（担当校長〔新庄小－大丸〕）

②児童代表挨拶〔壬生小〕

※植松電機(株)の植松先生に最後に挨拶をしていただく（事前に確認する）

(3) ロケット製作及び打ち上げ

各学校にて当日または、10月中に製作・発射をする。

5 会場・準備物等

(1) 講演会

【学校】※町教委と事前に確認

○パソコン（メールを受信できるもの。ZOOMアプリをダウンロードする。）

○WEB会議用カメラ

○モニター など

(2) ロケット製作及び打ち上げ

当日または後日、各小学校で実施する。

【町教委】－9月30日（水）までに各学校へ配布

○モデルロケットキット 167セット

■児童 158セット

■学校分 9セット（1セット／1校）

○ランチャー 9台（1台／1校）

○A8-3 モデルロケットエンジン 223本

■児童 158本（1本／1人）

■学校分 65本（5～10本／1校）※予備含む。

○マジック〔油性〕黒

■児童 158本

【学校】

○カラーマジック〔油性〕－ロケットに色づけする。

(4) 予算・会計

【町教委】

《植松電機》

○モデルロケットキット代（消費税別） 2,300円／1人 167人分

○ランチャー代（消費税別） 21,000円／1台 9台

《佐藤貿易》

○ロケットエンジン代（消費税込）

600円／1本 223本（児童分：1本／1人、学校分（予備含む））

6 実施後のアンケート・報告書・ふるさと夢プロ便りの作成について

○実施後に、ねらいが達成できたか評価したり児童の思いを把握したりするために、アンケートを実施する。【担当－八重東小(佐々木)】

【アンケートの内容】

◆児童については、昨年度に準じた内容を考える。講演会直後、ロケットの製作・発射後にアンケートをそれぞれ実施し学校ごとに集計・集約する。学校としての成果と課題についてまとめるアンケートを実施する。全部ではないが、基本的にその内容をそのまま報告書に掲載する。11月13日(金)までに所定の「共有フォルダ」に入力する。担当校長より、今後具体的な取組が示される。

○次の内容の報告書を、12月中に作成する。【担当－八重東小(佐々木)】

【内容】※学校関係分

◆プロジェクトのねらい、実施計画

◆各学校の活動の様子－講演会視聴、ロケット製作・発射の様子

◆実施後のアンケート結果

◆講演会

◆成果と課題

※今年度は、児童作文は書かない。

【分担等】

◆プロジェクトのねらい・計画（八重東小）

◆講演会視聴、ロケット製作・発射の様子(各学校)

⇒各学校で写真を入れて、A4で1枚にまとめる。所定の「共有フォルダ」に11月20日(金)までに入力する。

◆アンケート作成と実施後のアンケートのまとめ（八重東小）

◆講演会(本地小)

◆成果と課題（八重東小）

◎記録用写真撮影

⇒各学校で撮影した写真のデータを、所定の「共有フォルダ」に11月13日(金)までに入力する。

※担当校長より、今後具体的な取組が示される。

○「ふるさと夢プロ便り」を12月に発行し、プロジェクトのねらい・活動の様子・児童の感想等を地域へ広く発信する(回覧・配布)【担当－新庄小(大丸)】

7 その他

○植松電機・講演講師との渉外・会計は、町教委が行う。

○保護者通知は、各学校で学校便り・学級通知等で行う。講演会には、保護者・地域の方は不参加。きたひろネットの取材は、どこかの学校へ入る予定である。

○プロジェクトの趣旨を踏まえて、児童に目的意識を持って参加させるようにする。

○各学校でのロケット発射については、他の学年等にも見せるなどの工夫をしたり、このプロジェクトの取組について、学校だより等で保護者・地域へ情報発信したりする。

○町教委により、9月15日(火)の13:15より接続テスト<10～15分>がなされる。

○町教委により、9月24日(木)に植松先生も参加しての当日を想定してのリハーサルがなされる。町教委より今後詳細が示される。

「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」の活動の様子

芸北小学校

講演会 「思うは招く～夢があればなんでもできる～」

今年、北海道におられる植松努先生とリモートでの講演会でしたが、児童は、植松先生の夢のあるお話を真剣に聞き一生懸命メモを取っていました。児童は、リモートで遠くにいる人と繋がるのが初めてでした。そのため、テレビ画面に植松先生の顔が映り、声が聞こえた瞬間、とても感動していました。あっという間に植松先生の話に引き込まれ、質問も積極的にしていました。人としての生き方について考えさせられる、楽しくわかりやすく、とても心に残るお話でした。



たくさんのお話を聞いた中で特に心に残ったのは、「失敗しても大丈夫」という言葉です。ぼくは、失敗することが嫌で、普段授業の中であまり積極的に発表することがありませんでした。しかし、植松先生のこの言葉を聞いて、失敗は成功につながるということが分かったので、これから積極的に発表していこうと思いました。



ロケット製作



講演会の後は、待ちに待ったロケット製作です。初めは、じ〜っと説明書とにらめっこでしたが、時間が経つにつれて、友達に質問したり、協力したりする様子が見られました。ロケットが形になるにつれて子供たちの笑顔も多くなりました。最後は、色付けをしたり、「卒業までにめざす姿」を書いたりして、思いの詰まったロケットを完成させました！

ロケット打ち上げ

自分たちで製作したロケットは、11人の思いを乗せて、芸北の青い空へと打ちあがっていきました。全校児童にも見てもらったので、芸北小学校のグラウンドは期待のこもったカウントダウンの大合唱でした。空高く飛んだロケットを見て、児童は、みんな嬉しそうでした。



講演会・ロケット製作

民間でロケットを研究・開発しておられる北海道の植松電機代表取締役の植松 努さんの講演は、テレビ会議システムを活用して町内の小学校と植松さんをつないで行いました。

植松さんの講演「思うは招く」を、テレビ越しでしたが6年生は真剣に聞き入っていました。

植松さん自身の幼少期からの経験を基に、たくさんの金言を教えてくださいました。6年生にはどんな言葉が心に残ったのでしょうか。

ロケット製作では、昨年度までと同様に自分たちの力で完成を目指して取り組みました。説明書を読み込む姿は真剣そのものでした。わからないところを聞いたり教えあったりする姿が見られ無事完成しました。



初めてのオンラインが、今回の講演だという児童がほとんどでした。



植松さんの言葉にはすごく説得力がありました。話の内容にどんどん引き込まれます。



休んだ友達には、ロケット製作を進んで教える姿がありました。

ロケット打ち上げ

10月24日（土）は、大朝小中学校合同地域公開でした。地域公開のプログラムの最後に、大朝中学校のグラウンドで大朝小中学校全児童生徒と保護者のみなさんが見守る中で、ロケットの打ち上げを行いました。

少々風はありましたが、秋晴れの空の中に高く打ち上げられたロケットが吸い込まれていくようでした。大勢の人の「3・2・1・発射！」の掛け声がロケットに勢いを増しているようでした。



緊張の一瞬。火薬エンジン点火！白煙が上がります。打ち上げる6年生も後ろで見ているみんなも肩をすばめています。



空高く打ち上げられたロケットを大空の中から探します。後ろのみんなも大きな口を開けて空を見上げています。



ロケットの位置を確認したら、もうダッシュ！パラシュートが開いて地上に落ちるまでにキャッチを目指します！

講演の様子

9月30日（水）に（株）植松電機社長の植松努先生による講演を聞きました。児童は初めてのリモートということもあり、テレビ画面に映し出される映像に感動。他校の児童と直接会うことができなかつたのは残念でしたが、リモート映像を通しての他校の様子に関心を示していました。

植松先生の講演が始まると、全員がその話のおもしろさに引き込まれていました。ゲーム好き、アニメ好きなど、児童と共通点があり、とても親近感をもっているようでした。植松先生の言葉は、どれも実体験をもとにしたもので、説得力があり、納得しながら聞いていました。

子供たちは、「自分の夢に自信がもてました。」「大学に行く気がなくなつたけど、大学に行ってみようかなと思いました。」「夢にむかってあきらめないようにしようと思った。」などの感想を言っていました。心に響いたようです。



製作の様子



これまでのように、他校の児童と相談しながら製作することはできませんでしたが、友達と相談、確認しながら作っていました。説明書をよく読むことの大切さや友達と相談すると失敗しにくくなることに気付く児童もいました。



発射の様子

10月9日（金）に行った5・6年生のPTC活動の後半で、保護者や他学年の児童が見守る中、6年生が作ったロケットを飛ばしました。児童は、飛ばす前には「ちゃんと飛んでくれるか心配。」と不安に思っていたり、「植松先生の気持ちが分かる。」と講演の話を思い出したりしていました。

1発勝負の本番では、全員のロケットが無事飛んでくれました。自分の夢を乗せて、大空高く飛んでいくロケットを見ながら、みんな大興奮していました。飛んでいくロケットを追いかけ、落下傘が開いたところを見事キャッチ！大歓声が沸き上がり、みんなが笑顔になれた瞬間でした。

子供たちはもちろん、保護者にも大好評の打ち上げとなりました。「あんなすてきなことができるなんて、子供たちが羨ましいな。」と、つぶやく職員もいました。



川迫小学校

植松さんのリモート講演会

ふるさと夢プロジェクトの6年生の事業は、コロナに負けず、今年度も実施していただくことになり、先週の水曜日に植松勉先生の講演を聞くことができました。北海道から北広島へ来ていただくことは残念ながらありませんでしたが、リモートでお話を聞くことができました。

講演を聞いた感想を紹介します。

今日の2・3時間目の夢プロで植松さんにいろいろ話をしてもらいました。私は、いろいろあきらめかけていたことがあります。あきらめたらいけないことがわかりました。

失敗は成功のもとということが分かったので良かったです。



「夢はいくつあってもいい」「失敗しなければ成功はない」「やったことのない人に相談してもだめ。」などなど、たくさんの励ましが詰まった話を聞き、子供たちはたくさんの元気をもらったようです。可能性のある子供たちの将来を台無しにするような大人にだけはなってはいけないと、心から思えるお話でした。

ロケットの製作

翌日には、植松さんに準備していただいた手作りロケットの製作に取り掛かりました。これまでの先輩たちが作ってきたように、楽しみながら自分らしいデザインのロケットを作っていました。

各学校でのロケット製作になったため、他校の児童のみんなと交流することはできませんでしたが、協力しながら楽しく作ることができました。



ロケットの発射

いよいよロケットの発射です。10月20日、真っ青に晴れ上がった空に向かって、6機のロケットを全校児童が見守る中、発射しました。

新しくなった発射台にセットが完了すると、みんなでカウントダウンを行い、発射です。スタートボタンを押すと発射台から白い煙を吐いて、勢いよく空に向かって飛んでいきました。歓声が上がり、子供たちは大喜びでした。



植松先生の講演会・ロケット製作

9月30日（水）に北広島ふるさと夢プロジェクト事業で「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」が行われました。内容はテレビドラマでも放送された【下町ロケット】の題材となった（株）植松電機社長の植松努先生による講演会です。

例年でしたら、各校児童が集まり、講演会を聞き、その後ロケットの製作、そして発射を行います。しかし、今年度は一堂に集合しての実施が難しいため、講演会をオンラインで行い、ロケットの製作、発射は各校で行うこととなりました。

講演会の中で植松先生は子供たちにわかりやすい言葉で「夢をもつことの素晴らしさ」、「努力を続けることの大切さ」を話してくださいました。子供たちも集中して最後まで話を聞いていました。

この講演会を聞き、子供たちが夢を見つけ、それに向かって努力する人間になってほしいと感じます。他の小学校の6年生に会えないのは残念でしたが、実り多い講演会になったと思います。子供達にはWebでのオンライン通話は初めての経験でした。画面の向こう側にいる人に向かって手を振り、最後には画面越しの植松先生と一緒に集合写真を撮りました。

あまり行事のない日々だったので子供にとって、思い出に残るものだったと思います。そして、ロケット製作では、友達と協力する姿が多く見られました。植松先生が書かれた説明書を一生懸命に読み込み、製作に取り組みました。ロケットは自分の好きな色を塗り、23色のロケットが出来上がりました。「夢をかなえるための虹色」、「勉強を頑張るための鉛筆柄」、「好きなサッカーチームのユニフォームの柄」など、それぞれの個性が光るデザインとなりました。



ロケット打ち上げ

10月20日（火）にロケットを打ち上げました。この日、八重小学校は運動会の予行演習を行いました。予行練習が終わった後、打ち上げ準備を行いました。

この日は雲一つない青空でした。晴天に恵まれて、ロケットの打ち上げ日和となり子供たちの期待も大きくなりました。

子供たちは、発射台の近くの椅子に座り大きな声でカウントダウンを行いました。「ゼロ！！」という掛け声と共に空高く打ちあがるロケットを見上げる子供たち。6年生以外の児童もロケットを見つめ、大きな拍手と歓声が上がりました。

今回のロケットの講演会、製作、打ち上げを通して子供たちの充実した表情を見ることができました。思い出に残る1つの行事になったことと思います。



八重東小学校

【講演の様子】



9月30日（水）に植松努さんのお話を、リモートで聞かせていただきました。児童は植松さんの生き方や考え方について真剣に話を聞いていました。植松さんのお話から、児童は、何かをしているときに「どうせ無理。」と思わず、自信を無くすことなく、「だったら～してみよう。」「だったら～してみてもは？」という気持ちを持つことが大切だということ学びました。また、これからの日本を世界をよくしていく人は、「やったことがないことをやりたがる人」、「あきらめない人」、「工夫する人」であり、その可能性もっているのは「みんな」であるというメッセージを送ってくださいました。児童が書いた振り返りには、「今までの自分は～だったが、これからは、～したい。」というような自己の生き方について考えるものが多くありました。

【製作の様子】



10月12日（月）にロケットを製作しました。児童は、1～7班に分かれて製作に臨みました。ロケットの筒の中に、パラシュートを折り込んで入れる作業が難しそうでしたが、どの班も協力して作業に取り組み、なんとか困難を乗り越えていました。色塗りの際には、児童それぞれの想いを文字や絵、模様で表現していました。「夢に向かって頑張ろう」という気持ちが高まったようです。

【発射の様子】



10月16日（金）に、ロケットの発射を行いました。児童は、ロケットに自分の夢や願いを込めてロケットの打ち上げに臨んでいました。「自分の夢に向かって努力していきたい。」「〇〇高校へ進学して、甲子園の舞台に立ちたい。」など、様々な夢や願いを乗せたロケットが打ち上がりました。予想以上に高く飛ぶロケットに児童の驚きや喜びの声が聞こえてきました。ロケット発射後には、植松さんへの感謝の気持ちを口にしていました。「児童や自分の夢が叶う気がする。」「これから、この夢を実現できるように頑張りたい。」と決意を新たにしている児童がたくさんいました。

壬生小学校

講演会

思うは招く～夢があればなんでもできる～

9月30日（水）に北広島町の6年生と植松電機の植松努代表取締役をリモートでつなぎ、植松さんから「思うは招く～夢があれば何でもできる～」という演題で話をさせていただきました。

植松さんの子どもの頃のお話や、働き始めてロケットを作り飛ばすようになるまで、その中での人との出会いなどについて話をさせていただきました。



植松さんの話を聞いて一番印象に残った言葉は、夢はいくらでも持っていていいです。理由は、今まで夢は一つにしなないといけないからどうしようと思っていたけど、この言葉を聞いて、夢はいくらでももっていいんだと思うことができました。また、今までの自分は失敗するのがいやだからあまりやらずにいたけど、これからは失敗してもいいからチャレンジしていこうとも思いました。

みんなで協力！！ロケット製作

講演会の後、ロケット製作をしました。わからないことがあったら友達に聞いたり、1人で製作するのが難しい時には手伝ってもらったりしながらロケット製作をしました。作成中には、「大丈夫？手伝ってあげようか？」「そう！！できとるじゃん！」など、自然と声をかけ合いながら作っている様子が見られました。ロケットには、自分の好きな模様を描いたり色を塗ったりし、世界に1つだけの素敵なロケットが完成しました。



私は、ロケットを作ることがとても楽しかったです。理由は、説明書を読んでもわからないところは、友達に聞いたり、自分でどうやってやったらいいかを考えたりしたからです。ロケットには、「いろいろなことをなぜだろう？と考える力がつくように」という夢を乗せて飛ばしたいです。

夢を乗せてロケットを発射しよう！

10月7日（水）にロケットを発射しました。この日は、とても天気が良く、壬生小学校の上空には雲一つない青空でした。植松さんの話を思い出しながら、自分の願いや思いをしっかりと乗せて大空へロケットを発射しました。他の学年もロケット発射の様子を見学し、「3・2・1 シュー！」と大空へ飛んでいく度に、「うわー！！」と歓声が上がりました。



ロケットを発射させて飛んでいく瞬間や発射前のカウントダウンなどをみんなで見たり数えたりして盛り上がりよかったです。自分が作ったロケットを発射し、空高く飛んでいったおかげで、空の上に「パティシエに一步近づけますように」という願いが届いたと思います。

本地小学校

講演会 思うは招く ～夢があれば、なんでもできる～

「どんな話をされるんだろう？」と思っていた子供たち。最初は少し緊張していましたが、みんな植松先生の世界に入り込み、真剣に聞いていました。



みんな真剣な表情



リモート中継の植松先生を囲んで

・植松さんにいろいろな言葉を教えていただいたことがとても印象に残りました。その中でも私は、2つの言葉が心に残りました。1つ目は「不安の先には喜びがある」という言葉です。いつも不安の連続なので、この言葉を思い出してがんばろうと思いました。2つ目は、「失敗は人を成長させる」という言葉です。私はいつも失敗をおそれていたので、何事にも思い切って挑戦しようと思いました。

ただいま製作中



ロケット製作 どんなロケットができるかな？ 楽しみ！

午後からロケットの製作を行いました。植松先生の話聞いて、みんな早くロケットを作りたいと、うずうずしていました。

・いきなり説明書を読んで作るということは、これまであまりしたことがありませんでしたが、なんとか作ることができました。



ロケットが完成したよ！！

ワクワク ドキドキ 夢と希望を乗せて、 ロケットを飛ばそう！！

ロケット製作から3週間後、待ちに待ったロケットの打ち上げの日がやってきました。全校のみんなにも打ち上げの様子を見てもらいました。



うまく飛ぶといいな 発射台の前で記念撮影

・エンジンをつけるときに間違えてしまったり、発射台を見て不安になったりしていたけど、無事に飛ばすことができたので、やる前の不安が一気に吹き飛びました。
・最初作っているときは、こんな小さいロケットが100mも飛ぶのかなと思っていたけど、想像を超えるくらい飛んで行ったのでびっくりしました。発射するときの音がとても気持ちよかったです。
・「好きなことを大切にする」という植松先生の話があったから、ロケットに好きなものを描きました。成功したロケットと同じように夢も実現できるといいなと思いました。

豊平小学校

1 北広島ふるさと夢プロジェクト事業 「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」講演会

6年生の特色ある取組として子供たちが楽しみにしている「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」講演会は、今年度はオンラインでの講演会となりました。

豊平小学校では3密を軽減するため、多目的教室を6年生教室として活用しています。その多目的教室でパソコン画面を大きなテレビに拡大して、講師の植松努（株）植松電機社長と北広島町内の同学年のみんなとつながりながら講演を聞きました。

教室には、きたひろネットによる取材のためのテレビカメラがあり、さらには、北広島町教育委員会の池田庄策教育長が教室後方で講演を一緒に聞いてくださいました。

「失敗することは当たり前」

「やったことがないのに無理だと思わない」

「不安の向こうに喜びがある」

植松先生の体験に基づく数々のことばや画面からも伝わってくる情熱を心に刻みました。

また、植松先生への質問タイムでは、挙手して堂々ととてもよい質問ができました。



2 ロケット製作

向けられたカメラに少し緊張する場面もありましたが、説明書を見て自分で考えながら、それでもわからないときは友だちに聞きながらロケット製作に取り組みました。そして、1時間が経過したときには、6年生28名、それぞれの思いがこもった、色とりどりのロケットが完成しました。



3 ロケット発射（令和2年10月13日（火）10：30～）

これ以上は望めないほどの快晴でした。芝生校庭には、1～5年生のみんなも打ち上げを見ようと集まりました。順番に、ロケットを打ち上げます。「うまく打ち上がるかな」「パラシュートはちゃんと開くかな」と期待と不安の中、カウントダウンが始まります。「5・4・3・2・1・0、発射」、発射ボタンを押します。「シュー」という音と煙とともに、目で追えない速さで真っ青な空をロケットが進んでいきます。てっぺんに達したあとは、途中でパラシュートが開きゆっくりとロケットが落ちてきます。パラシュートがうまく開いた人も、そうでない人も地面に落ちるまでにキャッチしようとするのが豊平小流です。

新しい発射台と修学旅行を共にした芸北小から借りた発射台のおかげで参加した全員のロケットを打ち上げることができました。



新型コロナウイルスのためにたくさんの方が心配りをしていただき、おかげで講演会とロケット発射を体験することができました。

植松先生、教育委員会の皆さん、本当にありがとうございました。



講演会 「思うは招く」 ～夢があればなんでもできる～

講師 植松電機株式会社 代表取締役社長 植松 努 先生

はじめに

本当は、みんなに会いたかった。でも、こうやって北広島町と北海道がつながって講演会ができるようにしてくださった町の方々に感謝するとともにうれしく思う。

今日は、夢や仕事のことの話をするが、私の目的は話をするだけで仲間をさがすことだ。講演のタイトルは「思うは招く」だ。この言葉の意味は思ったらそうなるということで、私の大好きな言葉である。自分が思っている夢があれば何でもできる、すてきな夢をたくさん持ってほしい、夢がたくさんあればかなっていくという話をこれから聞いてほしい。



自己紹介

私は高校卒業後、ある漫画の影響を受け、車やバイクが大好きになり、いろいろなところを乗り回し、危ないこともいっぱいあった。今は54歳になり、さすがに乗り回すことはせず、もっぱらゲームで走っている。車やバイクが大好きだったから、自分でゲームを作り、このゲームはeスポーツにも認定されている。

もう一つ、私はアニメが大好きである。未来少年コナンからは、社会や仕事・仲間について学んだし、銀河鉄道999からは、命や自由ということを学んだ。とにかく、今でもアニメが大好きで、専用チャンネルなども録画しながらたくさん観ている。

私は北海道の赤平というまちに住んでいる。昔は6万人いた人口が今1万人まで減っている。一番の原因は仕事がないことである。そこで、私は仕事が無かったら作れば良いと考え、会社を作り現在社長として経営を行っている。昔小さいころ、集団行動ができない、忘れ物が多いなどと言われていた自分がロケットを造れるようになったのだ。

不安のむこうに喜びが・・・

今、ロケットを造り、年に何回か打ち上げている。すべて自分たちで造り上げたロケットが飛ぶと泣くほどうれしい気持ちになる。なぜ、泣くほどうれしいかという、それは泣くほど飛ばすのがいやだからである。自分の責任で打ち上げが失敗するかもと考えたら、みんな吐きそうになる。みんな緊張に包まれるうちにカウントダウンが始まり、打ち上がっていく。

そうすると、それまで不安だったむこうに大きな喜びが見えてくる。こんなふうに、ほんのちょっと勇気を持って、「失敗したらどうしよう？」に踏み込んだら、すばらしい思い出とすばらしい仲間が見つかって人生がどんどんよくなっていくのだ。

人を助けるということ

私は、ロケットを造りたいと考えていた時、北海道大学の田中先生と出会った。二人の出会いには意味があり、ロケットを造りたいという気持ちはあれども、知識や技術などそれぞれに足りないものがあった。このように、人の出会いには意味があり、足りないものがあるからこそ、助けあうことができた。私

は人を助けるのに大切なこととして、「勝手に観察すること」「勝手に予想すること」「勝手に自分ならどうするかを考えること」と思っている。そこには、「思いやり」と「やさしさ」が必要と考えている。私は田中先生を含めみんなと助け合って、ロケットを造ることができた。また、世界に3つしかない地上で無重力状態を造り出せる実験装置も造ることができた。これらは、助け合ってみんなと違うことをやったということである。違うから必要とされ、違うことが素敵となれば、それが発明となる。発明をすれば会社も作ることができる。いやなことにてあつたら、がまんするのではなく、勇気を出してなんでいやだと思ふのかを考えていけば、必ず多くの人を助ける発明になるはずである。

失敗はデータである

私たちが造っているロケットの燃料はプラスチックである。プラスチックはなかなか燃えないので、燃やすための技術を研究し、ようやく燃やすことができるようになり、今では安全なロケットとしていろいろな実験に使われるようになった。プラスチックを燃料とするなど、人と違うことはやったことがないことが多い。やったことがないことをすると失敗をする。人間は必ず失敗をする。しかし、そこからが大切なのである。飛行機づくりの歴史を見て失敗を乗り越えている。失敗はデータであり、乗り越えたら「力」となる。

「何もしない。」「できることだけする。」「言われた通りにする。」そうすれば、失敗はしないだろう。けれども、失敗をさけると、「何もできなくなる。」「成長できなくなる。」「考えられなくなる。」のだ。失敗を自分のせいにはしてはいけない。「なぜ失敗したのだろうか？だったらこうしてみたら」と考えることで力になる。

しかし、頑張れない人、できることしかしない人、考えない人が増えている。だからこそ、考える人が必要になる。是非、やったことがないことを、「やりたがる人」「あきらめない人」「工夫する人」になろう。生まれたときから、あきらめ方を知っている人はいない。夢をかなえるためには、自分の夢をどんどんしゃべろう。やりたいことは、やったことがある人としゃべろう。わかってくれる人に出会えるまで、しゃべり続けよう。

「どうせ無理 → だったらこうしてみたら！」

「どうせ無理」とがまんをする社会の中で、多くの日本の若者が命を落としている。本当のがまんとはあきらめることではなく、問題解決する方法を考えることである。そのためにも、勇気を出して夢をしゃべろう。きっと、乗り越えた人が助けてくれる。人に出会えなければ、図書室で伝記を読もう。伝記には、つらいことの乗り越え方が書いてある。乗り越え方のヒントがいっぱいある。

私は「どうせ無理」をなくすため、宇宙の仕事を始めた。だからこそ、ロケットづくりをみんなで行い、どんなこともあきらめないと考えている。

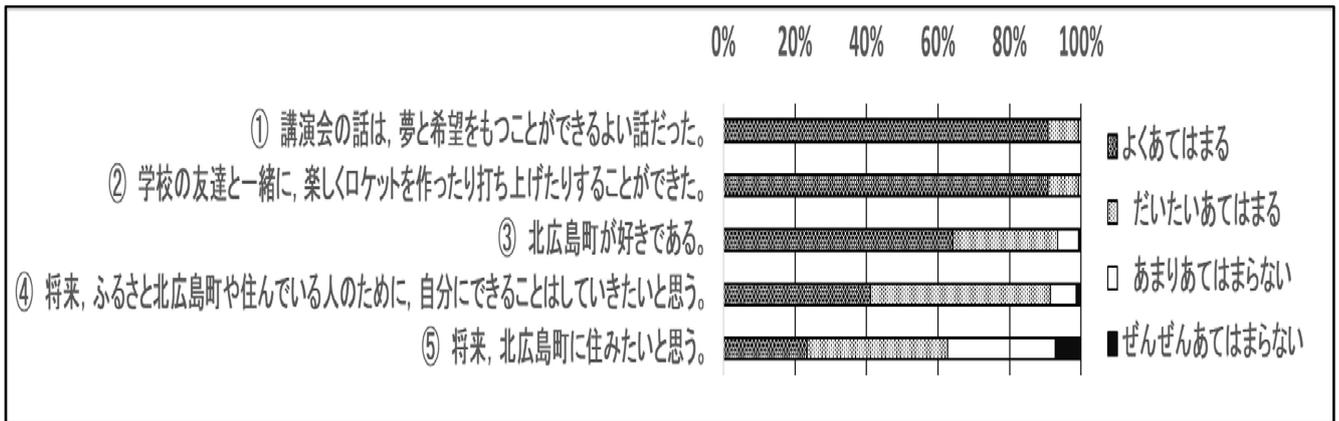
やさしさを夢の実現を！

夢とは大好きなことややってみたいことである。仕事とは人の役に立つことである。

とにかく、夢は中途半端だって言われてもたくさんあったほうがいい。何もしないよりはずっといいことである。

今やロボットが増え、仕事がどんどんなくなっている。でもなくなるのは、考える仕事である。悲しいことや苦しいことから生まれてくる仕事を作っていくには、『やさしさ』が必要である。昨日よりちょっとやさしくなれる人になってください。

プロジェクトを終えての「児童アンケート」結果（6年）



講演会の話についての感想や思いについて

芸北小学校

○たくさん話を聞いた中で特に心に残ったのは、「失敗しても大丈夫」という言葉です。僕は、失敗することが嫌で、普段授業の中であまり積極的に発表することがありませんでした。しかし、この言葉を聞いて、失敗は成功につながるということが分かったので、これから積極的に発表をしていこうと思いました。

○いつも自信がなかったけれど、植松先生が前向きな言葉をたくさん教えてくださったので、少し自信が付きました。特に心に残った言葉は、「人は、足りないことがあるからこそ助け合う。」「失敗を自分のせいにはしない。」の2つです。いつも「自分はみんなよりダメだ。」とか、「みんなよりできていない。」などと自分を責めていました。しかし、植松先生の言葉を聞いて「自分は、ダメではないんだ。」と安心することができました。

○「不安の向こうには喜びがある」という言葉で前向きになることができました。僕は、不安になる時がたくさんあるので、植松先生のこの言葉を思い出して頑張っていきたいです。

○いつも失敗をした時は、恥ずかしかったです。しかし、植松先生の「失敗はデータ」という言葉を聞いて、失敗は成功へ導く大切なことだと感じました。様々なことにチャレンジしてたくさん失敗をし、成功のためのデータとして活用していきたいと思います。

○植松さんの話を聞いて、夢をたくさんもつと思いました。夢をたくさんもつと、自分の夢の第一歩になることが分かりました。僕は、まだ夢がないのですが、早く夢を見つけて過ごしていきたいです。

大朝小学校

○自分は夢が2つあります。両方の夢をかなえるのは、無理だと周りに言われていました。だから私も「無理かな」と思っていました。でも、植松さんの話を聞いて夢はたくさんあってもいいんだと思えるようになりました。私は今、頑張っていることが、たくさんあります。全部を一生懸命がんばることは損じゃないんだと自信が持てました。

○植松さんの話を聞いて、私は夢と希望を持つことは大切だし、夢をかなえることは大切なことだと思いました。私の夢は「みんなを笑顔にできる仕事」です。植松さんのように頑張って、みんなを笑顔にしていきたいです。これからは、みんなで楽しく最後の小学校生活を送れるといいと思います。

○「夢や希望をたくさん持っていていいんだ」無理だと思っていたことも再チャレンジをしていこうと思いました。自分でも、「どうせ無理」と自分自身に発言し

ていたので、これからは、「どうせ無理」という言葉は使わないようにしたいです。

○失敗はみんながするもので、しないと成長しないということがわかって、失敗して成長していきたいと思った。本を読んだら、いいと聞いたけど、私は漫画しか読まないの、本を読まないといけないのかなと思ったけど、漫画も本として考えてどんどん読んだらいいといわれてうれしかったです。もっと読みたいなと思いました。

○植松先生の講演会はずごく説得力がありました。植松先生が「失敗はだめじゃない」という言葉がとても心に残りました。失敗をしてはダメだと思っていたけど、植松先生の講演会で失敗は成長につながるということが分かりました。植松先生の講演会でいろいろな大事なことを教えてもらったと思うし、この講演会で聞いたこと生活に生かしていきたいと思いました。

新庄小学校

- 植松さんの話を聞いて、どんなことがあってもあきらめられないで、夢を人の役に立つための仕事にしようと思いました。そして、僕が社会人になってだれかに教える立場になったとき、人をだめにするような無責任な大人にならないようにしたいと思います。
- 僕は、植松さんの話を聞いて、今まで夢をあきらめていたけど、やっぱり頑張って夢に向かっていこうと思いました。
- 植松さんのお話を聞いて、夢をかなえたいという思いが強くなった気がする。植松さんはいろいろな失敗をしていたけれど、あきらめず、ロケットを作り続けてすごいなと思いました。失敗もいいことにつながるんだなと思いました。

- 夢はいくつもあったほうがいいのかというのが「なるほど」と思いました。これまでの自分は、夢は後々大変だから、多いより少ないほうがいいのかと思っていました。けれど、夢をたくさんもつことによって、自分の可能性を広げることができると思いました。これからは、自分の興味のあるものに関して、たくさん夢をもちたいです。
- 私は、植松さんが言われていた「思うは招く」という言葉が今でもすごく心に残っています。誰かに将来の夢を笑われたり、「やめんさい」など言われたりしても、その夢のことを思っておけば必ず叶うということをお忘れず、これからがんばっていこうと思いました。私は、これまで将来の夢がなかったけど、今ではたくさんあります。それも植松さんのおかげのかなと思いました。

川迫小学校

- やりたい事をやったことない人に聞かないことが分かったし、未来はまだ決まってないからあきらめたらいけないことが分かりました。
- 考えたことは、やったこともない人の意見を聞いてその聞いたことの意味は意味がないから、自分の夢をいっぱいしゃべって、自分に合う人を探していきたいです。
- これからも頑張っていこうと思うことは、中学生になるから、夢を語って友達をたくさん作っていききたいです。
- 野球でヒットをいっぱい打てるように素振りを頑張りたいと思いました。守備もどんなボールが飛んできてもとれるように精一杯頑張りたいと思いました。足が遅いから家でいっぱい走って、速くしたいと思いました。

- どんなに嫌な言葉を言われても、夢をあきらめるな！という事が、とてもよくわかりました。自分の夢をかなえるために、しっかりと勉強したり、調べたりしようと思いました。夢をかなえていない大人に、自分の夢の事を聞かないようにしようと思いました。
- 私は、好きなことならたくさんあるけど、今までやってみたいとは思いませんでした。植松先生の話聞いて、やってみたいことを「夢」にして、将来その夢がかなうという事を教えていただき、とても良い事だと思いました。絶対に「どうせ無理」は、言うてはいけないと知って、何があっても言わないようにしようと思いました。本当にありがとうございました。

八重小学校

- やろうと思ったことは、あきらめずに最後までやりきろうと思いました。
- いくら、いろんな人に傷つく言葉を言われても立ち上がって頑張ろうと思いました。
- 夢をいっぱいすればどれかかなうと言っていたから、いっぱい夢をもっていきたいです。
- やったことのない人が何か言うてくることを気にせず、自分が決めたことをやりとげることが大切だということが分かった。
- 先生や友達に「いや」なことを言われたとしても、気にせず自分なりに生きていこうと思いました。
- 植松先生はたくさん失敗をして、それからどんどん成功していったので、ぼくも植松先生のように失敗から成功にしていきたいです。

- 失敗してもいいから、自分の「やりたい」と思う方向へ進み、1度しかない人生を楽しみながら生きていきたいです。
- 初めからみんなに言われてあきらめるんじゃなくて、頑張った人の話を聞こうと思いました。
- 失敗はいいことで決して悪いことではないとわかったので、失敗の経験を活かして頑張っていきたいです。
- 話を聞いて大事だと思ったことは「あきらめない」ということです。例え何があってもあきらめないことが大事だとわかりました。
- 「どうせ・・・むり」と言われても人の役に立つためにロボットにはできない「頭で考える」を意識して頑張りたいと思います。
- これから夢をあきらめずにしっかりと勉強をすることが大切だと思いました。

八重東小学校

○私は、今まで「私は漫画家に、水泳選手、画家、イラストレーターなどになりたい」と思っていました。しかし、友達に夢を聞いてみると、「私は、会社員になっとこーかな。」と言っている友達がたくさんいました。そこで私は、「自分だけうかかっている。」「はずかしい。」と思って自分の夢をあまり言いたくありませんでした。植松先生の話聞いて、自分の人生は1回しかないから、自由に夢をみんなに言ってもいいのだとあらためて思いました。

○植松先生の話聞くまでは、「好きな教科も得意なこともないからダメなのかな？」と思ったり、時々、分からない問題が出たときに「もう無理だー。」とか「どうせ頭悪いから適当なことを書いておこう。」というような考え方をしていました。植松先生の話聞いてからは、すぐあきらめて、楽な方を選ぶのではなく、自分から苦手なことにも挑戦してみようと思いました。これから、学習で分からないことがあったら、「わからん、無理。」と思うのではなくて、「どこが分からないのかな？」など、前向きに考えていくことが大切だと学ぶことができました。

○植松先生の話聞いて、自分の夢をすぐにあきらめたり、どうせ無理だと思うことは辞めようと思いました。また、自信をもって自分の夢を友達にバンバン言いたいと思いました。本をたくさん読んでほしいと植松さんは言っておられました。好きな本、漫画、偉人の伝記をたくさん読んで、自分に自信や元気、勇気をくれる一冊に出会いたいです。

○植松先生の話聞いてみて、今の自分の体操のことと関係付けて考えてみました。何度練習しても体操でできない技がありました。「もう無理だ。」と思うことよりも、まずは考えて「ここがいけないからできないんだ。」というようにするとその技ができるようになったことがあります。植松先生の話にあったように、「あきらめずに考えることで難しいことは乗り越えられる」ということに改めて気づきました。できないことのであった時、泣く前に考えて挑戦することは、どんなことをするときも大切だと分かりました。

壬生小学校

○みんな自分に自信がもてないと「○○してもどーせむり。」というけれど、その言葉は言ったじてんでなくなる(自信が)と聞いて、こんどから私は「どーせむり。」と思ったり言ったりするのではなく、「じゃーどうすればできるのかな。だれかにきいてみよう。」と思えるようにしたいと思いました。一番印象に残った言葉は、「人間は必ず失敗する。」です。理由は、人間って初めてやって全部完璧にできることはないと思うし、「失敗したってみんな失敗する。」と思ったからです。私も本を読むことが大好きで何か少しでもひまがあったら本を読んだり、週一のペースで本を買ったりするので植松さんの話を聞いて、「やっぱり本は勉強になるから大切なんだ。じゃあこれまでもおりにいっぱい読もう。」と思いました。勝手に観察したりしてみたり勝手に考えたりして、人のために動きたいと思いました。

○今日、植松さんの話を聞いて「人は失敗すること」という言葉が一番心に残りました。なぜかという、私は何回も失敗をした中ですごく失敗したことは、委員会です。みんなの前で立って司会をしたり、みんなをまとめたりします。でも私はみんなをまとめることができなくて、いつも失敗してしまいます。なので、こんどこそは失敗しないとずっと思っていました。でも、植松さんの話を聞くと「人は失敗していいんだ」と思いました。この言葉を聞いて心が救われました。だから、次、みんなをまとめる時は、失敗し

でも落ちこまないでみんなをまとめることをこくふくしたいです。

○植松さんは、何事にもあきらめない人だなと考えました。なぜかという、「無理だ」や「東大に行かないと無理だ」、など言われて「この世から消え去りたい」と自分をおいつめていたけれどあきらめず趣味の物作りでみんなに興味を持ってもらうようがんばっていたからです。ぼくは物を作るのが好きで失敗するとどうしよう失敗したら、パニックになるからなぜ失敗したのか、どこがいけないのか確認して落ち着いて物を作っていきたいと思います。宿題が分からない時に「無理だ」と言ってやる気をなくすので、これからは分からなかったらノートを見る、教科書を見るなどして、「無理だ」ではなく「分かった」にしたいと思います。

○植松さんの話を聞いて、一番印象に残っている言葉は、「夢と人のために合わせると仕事になる。」という言葉です。理由は自分の持っている夢で人のために何ができるのかなと考えると仕事になると聞いて、夢で人のためになれるのはすごいなと思ったからです。また、仕事になるのはびっくりしたからです。この植松さんの話で、他にも人との出会いや、どうせむりと言ったら自分も相手も希望を失ってしまうから言っはいけない、など いろいろな大切なことも教えてもらったので、今から生かして、仲のいい友達をたくさん作ろうと思いました。

<p>○植松さんの話を聞いて一番印象に残った言葉は、「不安の先に喜びがある」です。理由は、植松さんは、先生や友達からばかにされても、夢をあきらめていなかったからです。先生や友達にばかにされてもどうしたらできるか考えて夢に向かって努力した植松さんはすごいなと思いました。理由は、私だったらど一せむりだと決めつけてあきらめてしまうと思ったからです。だから私も植松さんのようにばかにされたりど一せむりと言われても努力できる人になりたいです。</p>	<p>○私は植松さんの話を聞いて、とてもたくさんの言葉が印象に残りました。その中でも、「思いやりとやさしさがあればいい」という言葉です。理由は、どんなに頭がよくても思いやりとやさしさがないと、いけないことをしてしまって、自分がとてもこわいことになるということが分かったからです。なので思いやりとやさしさをしっかりと意識して生活していきたいです。他にも、「人との出会いを大切にすること」という言葉がとてもすてきだなと思いました。人との出会いは一度きりだから、出会ったら大切にすることだということが分かって、私も人との出会いはとても大切にしようと思いました。</p>
---	---

本地小学校

<p>○どんなに周りからむだだと言われてもいつかは役に立つと思うから、あきらめずに頑張ろうと思いました。</p> <p>○植松さんにいろいろな言葉を教えていただいたことがとても心に残りました。その中でも2つの言葉が特に心に残りました。1つ目は「不安の先には喜びがある」という言葉です。いつも不安の連続なので、この言葉を思い出して頑張ろうと思いました。2つ目は「失敗は人を成長させる」という言葉です。私はいつも失敗を恐れていたの、思い切って何事にも挑戦しようと思いました。</p> <p>○才能がなくても努力でカバーするなど、これまでの行動を改める良い機会だと思った。</p> <p>○植松先生の話聞いて、自分の夢に希望と自信がもてるようになりました。とても自信ができました。</p>	<p>○植松先生の「夢はテストの点じゃなくて好きなことを続けるかどうか」という言葉が心に残りました。だから、テストはテストで頑張るけれど、好きなこともやり続けようと思いました。また「人間は必ず失敗する」と聞いて、私は1回失敗したらくじけてしまうことがあるけど、何回も挑戦し続けようと思いました。</p> <p>○まず「どうせ無理」という言葉は使わない、あるいは言われてもあきらめずにやり切ることが大事だということが分かりました。植松先生のようにみんなができないと思っていることができるような大人になりたいです。これからは、あきらめずにやりたいことができるようになりたいと思います。</p>
---	--

豊平小学校

<p>○いろんな苦難に出会っても、自分はやるんだという強い心を持って夢をあきらめなかったことがとてもすごいと思いました。</p> <p>○植松先生のお話で、ロケットの作製をするのに何回も失敗して、やっと成功したという時のうれしさが忘れられないくらいのものだということが分かり、自分も努力するのを頑張ろうと思いました。</p> <p>○「どうせ無理」とよく言ってしまいます。でもそのことを言うをやってもいないのに無理と決めつけているようで嫌になりました。可能性はあるので、だめだ、むり、できるわけないなど否定的なことは言わないようにしたいと思いました。夢は、自分の考え方だけでどうにでもなるので、この考え方は捨てようと思います。先生のお話は自分の未来の話でもあり人生自分したいなんだなと思いました。</p> <p>○できるかできないかは自分が決めることで、人の気持ちに左右されずに夢をかなえるために「努力すればなんでもできる」ということが分かりました。</p>	<p>○植松先生が、つらいことや逃げ出したいと思ったことがたくさんあっても、1つの言葉で心を守っていたことはすごいと思いました。私も、「不安のむこうに喜びがある」ということを心の中に入れて、小学校生活や社会に出てもこの大切な言葉を味方になんばっていききたいです。</p> <p>○人のすごさは無限だなと思いました。また、たくましく生きることがこれからの自分に楽しさをあたえると考えました。植松先生の言っていたことを忘れず、どうせ無理だと思わないように苦しいことも考えていきたいと思いました。</p> <p>○「私なんてぜったいムリ！」と思うことはだめだとわかりました。成績が悪くても、体育ができなくても、それだけではなく、「考え」が大切だということもわかりました。努力は将来への第一歩なので、これからもいろんな失敗をして、成功への第一歩に近づけていこうと思います。</p>
---	--

ロケット作り・打ち上げの感想や思いについて

芸北小学校

- 作り方が難しい部分もあったけれど、友達と教え合いながら楽しくロケットを作ることができました。ロケットを発射させる前は、ちゃんと飛ぶかどうか不安で、すごくきんちょうしました。しかし、ロケットの発射スイッチを押すと、空高く飛んで、パラシュートもしっかり開いてくれたので、うれしかったです。
- ロケット作りは、とても楽しかったです。去年までは、ロケットを飛ばすのを見る側だったのですが、今年は、自分で作ったロケットを飛ばす側だったのでわくわくしました。自分で組み立てたロケットが空高く飛んで行った時は、とても感動しました。夢が広がりました。
- 物を作るのが苦手な私でも、とても分かりやすい説明書だったので簡単にロケットを作ることができました。分からないところがあっても、友達と助け合いながら作ることができました。また、ロケットを発射する時は、うまく飛ぶか不安でしたが、高く飛んでくれたので良かったです。

- 高く上がったロケットを見て、下級生の人達に「お～！」と言ってもらえたのでとてもうれしかったです。自分で作ったロケットがあんなに高く飛んでくれるとは思いませんでした。すごくうれしかったです。6年生の仲間とアドバイスをしながら作ったロケットは、格別でした。
- 見せてもらうだけでも楽しかったロケット飛ばしですが、6年生になって実際に飛ばしてみると、さらに楽しい気持ちでした。間近でロケットの飛ぶ瞬間を見ることができたことや大きな音が聞けたことなど、自分が実際に体験してみると、これまでの6年生が感動した気持ちが分かった気がしました。飛んだロケットを取りに行く時間でさえも、とても楽しく感じることができました。またロケットを飛ばしたいです。

大朝小学校

- ロケットづくりはみんなでいろいろな話をしながら作られて、とても楽しかったです。飛ばしたときは、私の思った以上に高く飛んで、面白かったです。本物のロケットを飛ばしたような体験ができて楽しかったです。ロケットはこうやって遠くまで飛んでいくんだと思いました。
- ロケットづくりをしながら、自分で作ったロケットが空高く上がれば、私の夢も実現できると思いながら作りました。ロケットを発射させるときは、パラシュートが開くか心配でしたが、無事に開いて嬉しかったです。ロケットのキャッチは残念ながらできませんでした。
- みんなで協力して作ったロケットがうまく飛びますようにと思いながら、ロケットづくりをしました。カラーは自分の好きなキャラクターの色を再現してぬりました。発射してみて、ボタンを押したら、すごいとんでいって、自転車置き場の屋根まで飛んでいきました。成功してよかったです。

- ロケットづくりでは、みんなで見えない所とかを相談しながらできました。できないところは助け合いながら、できました。色塗りも工夫してできました。ロケット発射はびっくりするくらいロケットが飛んで、キャッチができませんでした。感動しました。先生はキャッチできていて、すごいと思いました。
- ロケットづくりの日、ぼくは遅刻して授業に参加しました。友達に教えてもらいながらやりました。友達はとてもやさしく教えてくれてすごく楽しかったです。土曜日にロケットを飛ばしました。ちゃんと飛ぶかどうか分からなかったけど、ちゃんと飛んでよかったです。飛んだ時はすごくうれしかったです。

新庄小学校

- ロケットを飛ばす前はパラシュートが開くか不安でした。けれど、いざ飛ばしたら自分の未来に向かって一歩踏み出したような気がしました。なんだか、これからの自分が少し見えたような気がしました。ぼくは今、夢が少ないです。これからの自分に向かって、一歩一歩確実に歩いていきたいです。

- ロケットを作っているとき、友達と教えあいながら作って、とても楽しかったです。色をぬっているとき、色にムラができないように工夫しました。発射する時、植松さんが言ったようにものすごく緊張して「失敗しないかな」と思ったり、パラシュートの確認を何回もしました。でも発射し終わったらすごくうれしかったし、成功してよかったなと思いました。

<p>○とてもドキドキしました。夢に届くように願い、ロケット飛ばしました。飛ばしたとき、達成感があってうれしかったです。夢に向かってあきらめないようにさらにがんばりたいという思いが強くなりました。</p> <p>○1回目は飛ばなかったので、作り方を間違えたかなと思ったけど、2回目はうまく飛んでとてもうれしかったです。ロケットが思っていたよりも何倍も高く上がったので、集中して見てしまい、ぼーっとしてしまうくらい高く飛んだのですごいと思いました。</p>	<p>○ロケット作りでは、みんなと協力し、みんなでも楽しく作ることができました。このことにより、みんなと学ぶ大切さに気付くことができました。発射では、緊張感から生まれる達成感を感じました。そして、努力は報われるということに気付きました。</p>
---	--

川迫小学校

<p>○私の作ったロケットが飛んで、とてもうれしかったです。ロケットを作るのは大変だったけど、無事にできてよかったです。</p> <p>○ロケットを作った時には、とても楽しい気持ちで作れました。発射したときはうまく打ち上がったけど、着地するときに、風に流されて、川に落ちかけて、どうなることかと思いましたが、ちゃんと無事だったのでよかったです。</p> <p>○作った時の達成感がとてもすごかったです。うまく飛んでくれた時、とてもうれしかったです。物作りがこんなに楽しいことなのかと思いました。</p>	<p>○すごく高くロケットが飛んで行ったのがとてもすごかったです。すごい迫力でした。</p> <p>○あんなに飛ぶとは思ってなかったので、植松さんの頭の良さがよくわかりました。ロケット作りはみんなでも楽しめたので、良かったです。</p> <p>○出席番号順に打ち上げていき、自分の番が来て打ち上げた時、高くない感じで上がったけど、パラシュートとひもがからまって、すぐ落下したので、打ち上げの前に最終確認をすればよかったなと思いました。でも、みんなでも楽しくロケットを打ち上げできたので良かったです。</p>
---	---

八重小学校

<p>○ロケットを発射させて思ったことは、思った以上に高く上がったのでびっくりしました。</p> <p>○パラシュートがうまく開か不安だったけど、開いて安心しました。</p> <p>○みんなのロケットがカラフルで自由だなと感じました。</p> <p>○ロケットがきれいに飛んだらこんなにきれいなんだなと感じました。</p> <p>○ロケットの色は僕が大人になって夢がかなうように「にじ色」にしました。空に輝いていて見えやすくてよかったです。</p> <p>○ロケットづくりでは友達と間違いを指摘したり、わからないことを聞いたりして間違いずに作ることができました。</p>	<p>○打ち上げることに不安がありましたが、その不安が笑顔に変わったので良かったです。</p> <p>○今日空高く飛んだのでとても安心しました。不安な気持ちがなくなりました。</p> <p>○また機会があればロケットを空高く打ち上げたいと思います。</p> <p>○植松先生がこれより大きいロケットを製作しているのですごいなと感じました。</p> <p>○安全に楽しく作れたし、発射が上手にできたのでうれしかったです。</p> <p>○ロケット発射のカウントダウンの時が楽しくて、無事手元に帰ってきて安心しました。</p>
---	---

八重東小学校

<p>○初めて自分で作ったロケットが3・2・1の合図で空高く舞い上がってくれてよかったです。空高く上がっていくロケットを見て、夢へと向かっていく姿のように見えました。私はまだ将来の夢が決まっています。でも、夢がないならもう少しゆっくり考えて決めればいいし、夢が決まった時には今日飛ばしたロケットが大空をつき進んで行ったように、私も自分の夢に向かってつき進んでいきたいと思います。</p>	<p>○ぼくは、時間をたくさんかけてロケットを作りました。作るときに、分からないことがあっても、協力すればなんとかできました。楽しく作ることができてよかったです。色はいろいろな思いをこめてぬりました。例えば、「遠くまで飛びますように」とか「自分の夢がかないますように。」という思いをこめました。ロケットを発射した時には、とても高く飛んだので感動しました。こんな体験をさせてくださった植松さんに感謝をしないとけないと感じました。</p>
---	---

<p>○私は、最初、「ロケットがちゃんと飛ぶかな…。こわれないよね。」と思っていました。飛んだ瞬間は、正直感動よりも「どこにいった？」という気持ちが強かったです。しかし、自分のもとにもどってきたときには、目の奥がジーンとして感動していました。不思議な気持ちでいっぱいでした。今の自分の夢を書いたロケットが高く飛んだので、夢がかなったらいいと思いました。</p>	<p>○友達と相談しながらロケットを作ったのでとても楽しかったです。みんなロケットに夢やしてみたいことを書いていてとてもすごいなと思いました。発射させて思ったことは、自分で初めて作ったロケットが空を飛んでうれしさと感動という気持ちがこみ上げてきました。それに、無事に飛んで自分の夢をかなえようという勇気をロケットからもらえたと思います。</p>
--	--

壬生小学校

<p>○ロケット作りは友達と協力して、できないことは教えてもらって、逆に友達が分からなかったら教えてあげたりして楽しくできました。ロケットを作るときに、自分の夢を考えながら「どんな色にしようかな。将来バレーボール選手になりたいからボールの色で青と黄色にしようかな。」と考えて作ることができました。発射させるときは、友達と一緒に「3・2・1。」と一斉に青くてきれいな大空へ夢をのせて上まで高く飛ばせたのでよかったです。</p> <p>○ロケットを作ったときは、明るい色にして夢がかなうようになってほしいから、明るい色を多く使った。ロケットを飛ばしてみても、気持ちよく飛んでくれてうれしかった。ロケットをキャッチすることはできなかったけど、感激した。夢は絶対かなうと信じている。いろんな思いをロケットに伝えて将来、夢だったトリマーになって、動物をかわいく見せたい。</p> <p>○この前、ロケット作りを行って「ちょっとこれは飛べるかな？」と思ったりして、不安な気持ちがあったけど、今日実際に飛ばしてみても、みんなと一緒に上手に飛ばすことができてよかったです。ただし、いっしょに「ん？」となることがありました。みんなだれ一人失敗することなく飛ばすことができていいと思いました。みんな自分の夢のことを考えて飛ばしました。何年たってもこの思い出は忘れられません。</p>	<p>○ロケット作りで難しかったことは、パラシュートをつけることでした。パラシュートのひもは頭のねじの所から3cmの所にひもを結ぶということです。でも、友達に、一回結んでひもをずらせばいいよと言われて、作ることができました。発射してみても、空の上に、パティシエに一步近づけますよにという願いが、ロケットのおかげで届いたと思います。キャッチはできなかったけどとても楽しかったです。</p> <p>○ぼくはロケット作りをして、友達と協力することがよくできるようになったと思います。ぼくは1つ不思議だなと思ったことがあります。それはパラシュートをぐしゃぐしゃにするからです。最後にロケットを飛ばしてみても、ちゃんと夢をのせて飛ばすことができました。ロケットがしっかり飛んだのでうれしかったし安心しました。またいつか飛ばしたいと思いました。</p> <p>○私は、ロケットを発射する前は失敗してしまったらどうしようと思っていました。だけど、植松さんの話を思い出して「失敗はだれでもして失敗をすると成長する」ということだから大丈夫だと思って、自信をもってロケットを発射して、パラシュートが落ちてきたときにとることができたのでよかったですし、うれしかったです。無事に飛んで自分の夢をのせることができました。ロケットを作ることも友達と協力してできました。とてもいい思い出になったと思います。</p>
---	--

本地小学校

<p>○パラシュートがちゃんと開くか心配だったけど、ちゃんと開いてよかったです。想像以上に飛んで行ったのでびっくりしました。いい思い出になりました。</p> <p>○エンジンをつけるときに間違えてしまったり、発射台を見て不安になってしまったりしていたけど、無事に飛ばすことができ、やる前の不安が一気に吹き飛びました。とても楽しくて、また作って飛ばしたいなと思いました。</p> <p>○わからないところはみんなでお互いに助け合いながらロケット作りができました。絵をかくときには、みんなと意見を出し合いながらかけたので、楽しくできました。</p>	<p>○最初作っているときは、こんな小さなロケットが100mも飛ぶのかなと思っていましたが、想像を超えるくらい飛んで行ったのでびっくりしました。発射するときの音がとても気持ちよかったです。</p> <p>○ロケットを作って飛ばしたとき、すごいななと思いました。自分のロケットがあんなに飛んだので、とても感動しました。無事成功したのでうれしかったです。</p> <p>○「好きなことを大切にしよう」という植松先生の話があったから、ロケットに好きなものをかきました。成功したロケットと同じように夢も実現できるといいなと思いました。</p>
--	---

豊平小学校

- ロケットづくりをていねいにするのは難しく、夢・希望をのせて飛ばせるかなと不安になりましたができたので、最初からだめだと思わず、頑張ることで報われると思いました。パラシュートは発射しても開かず、失敗に終わりました。「どうしてかな」や「悔しい」と思い、自分が作ってだめだったところをすぐにふりかえり反省することができたので、いつもの自分より成長できたと思います。
- ロケット飛ばしはワクワクとドキドキでいっぱいでした。とても高く飛んですごかったです。パラシュートもしっかりと出てきたし、ゆっくりと落ちてきたからキャッチできました。全校のみんなからはく手をもらえたり、友達からもほめられたりといううれしかったです。
- 去年まで毎年6年生がロケットを発射するのを見ました。私はその発射するところを見てずっと「ロケットを発射してみたいな」と思っていました。この思いがかなえられたのでとてもうれしかったです。

- 初めてロケットづくりをしました。世界に1つだけのロケットができてうれしかったです。北広島町にいるからこそロケットづくりができたのでとても良い思い出が作れたし、ロケットの仕組みが知れてよかったです。今年は北広島町の6年生全員が集まって作ることができなくて残念だったけど、オンラインで講演会が開催されてよかったです。
- ロケットを飛ばしてみても、「よくこんな小さい模型が飛べるな」「どうやって飛ばしているんだろう」「どのようなしくみをしているんだろう」と思いました。このしくみを知って、自分もロケットを作りたいなと思いました。
- 全く知らない人でも、空高く飛べるロケットを作れることはすごかったです。家に持って帰っても飾りたいです。作る時も楽しく、とぶときも楽しいことを体感しました。大切に持っておきたいです。

5年「ふるさと夢体験」の活動の様子

北広島ふるさと夢プロジェクト 5年生見学・体験活動《芸北小学校》

1. 実施した活動について

【期日】 令和3年2月16日（火）

【場所】 北広島町図書館本館
(北広島町新庄 1031 - 1)

【ねらい】

- ・大朝郷土資料室の見学を通して、北広島町の歴史や文化に興味・関心をもつ。
- ・図書館の利用法や役割について学び、学びに役立てることができる施設であることを知り、今後の学習や読書生活に役立てようとする。



【「お願いします。」】

2 活動の様子

【大朝郷土資料室についての説明を受ける】

生涯学習課文化振興係 原田靖久係長さんに解説をしていただいた。縄文時代や弥生時代の土器などの展示品の見学をしたり古墳の話の聞いたりして、自分たちの住む地域が大昔から人々の暮らしの場であったことを知ることができた。また、関ヶ原の戦い前後にこの地域を支配していた戦国武将の話に興味深く聞くことができた。



【 吉川元春の肖像画の前で 】

【北広島町図書館本館についての話を聞く】

事前に送らせていただいた児童からの質問を中心に、司書の高杉香織さんと高杉佳さんに、説明をしていただいた。蔵書数や貸し出しの方法、日ごろの司書の仕事等についての質問に丁寧に答えていただいた。特にお二人の「お気に入りの本」やお二人からの「お薦めの本」の紹介時には、身を乗り出して聞いていた。



【「お薦めの本」は・・・】

【本を借りる】

北広島町図書館本館で一人一冊ずつ本を借りる（団体貸し出し）体験をした。たくさん本を前にして、関心がある本の並ぶ書架の前でじっくりと選ぶ児童、どの本にしようかとあちらこちらと探して回る児童など、様々であった。学校図書館や北広島町図書館芸北分館の利用経験はあるが、図書館司書がおられる大きな図書館を利用するのは初めての児童もあり、またぜひ、ゆっくり借りに来たいという思いをもった児童が多かった。



【「どの本にしようかな？」】

3. 活動を終えて

町内の施設でありながら、児童は利用した経験がほとんどなく、良い機会となった。大朝郷土資料室では、身近に貴重な歴史資料があることが分かり、6年生の社会科で学習する歴史の内容へ興味をもつきっかけとなった。北広島町図書館本館では、本を借りる活動を通して、自ら学ぶ力をつけていこうとする児童にとって、これからの学びを手助けしてくれる貴重な場を知ることができた。

北広島ふるさと夢プロジェクト 5年生見学・体験活動《大朝小学校》

1. 実施した活動について

【期日】 令和2年10月15日（木）

【場所】 芸北高原の自然館と周辺
（北広島町東八幡原 10119 - 1）
大暮養魚場
（北広島町大暮 85-3）

【ねらい】

- ・県内外に誇れる自然が町内にあることを知るとともに、貴重な動植物の生態を学び、大切に守っていく必要性に気づかせる。
- ・町内の特長を生かした産業があることを知り、工夫や努力によって生産性を高めるとともにブランド化に成功していることを知る。



【 おーいの丘にて 】

2 活動の様子

【芸北高原の自然館】

主任学芸員の白川勝信さんに解説をしていただいた。自分達が住む大朝地域では見かけない動植物の標本などや変わった生態を知ることができた。もしかしたら、大朝地域でも貴重な動植物に出会えるかもしれないと児童は思いをふくらませていた。



【 白川さんの解説を聞き入る 】

【八幡湿原散策】

自然館の周囲は貴重なマツムシソウがたくさん自生していた。センブリは漢方薬にもなると聞き、葉を少し食べてみたが思いのほか苦く、効き目があるのだろうと納得していた。「おーいの丘」では、五年生の二人で思いっきり大きな声で「おーい！」と叫んでみた。秋晴れの中、素晴らしい八幡の景色を堪能できた。



【 センブリを口にしてみると！ 】

【大暮養魚場】

大暮養魚場を経営されている片桐義洋さんに説明していただいた。ものすごい数のアマゴを昼夜問わず、大切に育てておられることが分かった。広島特産のレモンをエサに配合して育てることで「レモンサーモン」として付加価値を付けていることが分かった。

最後に、今度は家族で来て、釣り堀体験をして、アマゴを食べたいと感想を伝えていた。



【 水の管理の大切さが分かる 】

3. 活動を終えて

見学地は、町内にありながら、児童は行ったことがないところだった。新たに発見することもあり、北広島の良さを実感するとともに再訪したい思いを児童は持つことができた。活動のまとめとして、全校朝会にてパネルディスカッション方式で見学したことを全学年に報告をした。

北広島ふるさと夢プロジェクト 5年生見学・体験活動《新庄小学校》

1. 実施した活動について

【期日】 令和2年12月4日（金）

【場所】 豊平どんぐり村そば道場
（北広島町都志見 12609）

オオアサ電子

（北広島町大朝 3817-10）

【ねらい】

町内の人・もの・ことを見学，体験する学習を通して，児童に北広島町のすばらしさを学ばせ，ふるさとが好きで誇りをもてるようにする。

2 活動の様子

そば道場では，そば粉からそばを打って，食べました。手順を丁寧に説明してもらったおかげもあり，全員，上手に打つことができました。どの児童も熱心に説明を聞き，慎重に作業したので少々時間がかかりましたが，初めて作った経験は良い思い出になったようです。指導してくださった方のお手本を見るたび，驚きの声が出ていました。細く切ることが難しく，店で食べるより太くなったので，「店で食べる方がおいしい。」と言っていました。プロの技術のすごさを感じることもできたようです。そばが豊平の特産だということを知ることができ，地域の特徴を学びました。

オオアサ電子では，最初に製造工場を見学しました。埃が付かないようにいろいろな工夫をしていることや製造ラインの機械も自前で作っていることを教えてもらいました。社会科で学習した工業生産の内容とつながることが多くあり，学びが深まりました。また，映像が3Dで目の前に出てくる最新の機械も見せていただき，児童はとても驚きました。その後，ショールームへ移動し，世界に誇れるスピーカーの性能を体感しました。どのような工夫がされているのか，普通のスピーカーとどう違うのか，本物の音を聞くことで理解していました。身近な地域にこれほどすごい企業があることを知り，とても驚いていました。

3. 活動を終えて

今回希望した見学・体験施設は，どちらも北広島町らしさがあるが，知らない児童がほとんどでした。活動のおかげで地域への理解が高まりました。今回の体験は，児童の心に深く残り，地域への誇り，地域愛につながる活動となりました。



【そば道場でのそば作り】



【自分で作ったそばを食べました】



【組み立て工場の見学】



【ショールームでスピーカー体験】

北広島ふるさと夢プロジェクト 5年生見学・体験活動《川迫小学校》

1 実施した活動について

【期日】 令和2年11月24日（火）

【場所】 戦国の庭歴史館，吉川元春館跡，豊平どんぐり村そば道場

【ねらい】

- ・現地での見学・学習を通して，北広島町の良さについての関心を高め，理解を図る。
- ・校外における集団行動を通して，一人一人が社会の一員としての自覚を持つとともに，社会における基本的な生活態度を身に付ける。
- ・説明してくださる方への挨拶・質問などを通してコミュニケーション能力を育てる。

（キャリア教育：コミュニケーション能力，
人間関係形成能力の育成）



【館内の説明を聞く】

2 活動の様子

《戦国の庭歴史館，吉川元春館跡》

「戦国の庭歴史館」の館内見学を学芸員さんの説明を聞きながら行った。その後，当時の生活を体験することの1つとして，着物や甲冑等の衣装を着て，写真を撮った。

「吉川元春館跡」で敷地内（特に，当時のままの池）の説明を聞き，台所で石臼でのそばの実挽き（そば粉作り）とそば粉入りパンケーキ作りを通して当時の生活の体験活動をした。



【着物や甲冑を着て】

《豊平どんぐり村そば道場》

「そば道場」では，そば打ち体験を指導者の方の指導の下で行った。そば粉を練るところから生地を切るところまでの体験を児童が交代で行った。

午後には実施したので，児童はできあがったそばを容器に入れてもらい，持ち帰った。



【そばの実挽き体験】

3 活動を終えて

活動を終えて，学習のまとめをする際の児童の感想によると，「戦国の庭歴史館，吉川元春館跡でも，豊平どんぐり村そば道場でも北広島町内に他に誇れる施設があることに気づき，また，担当者を中心とした人の温かさを実感した」ことを表現していた。

その学習のまとめとして，今回の活動で感じた北広島町の良さを保護者や他校の児童に紹介することを目的とした「パンフレットづくり」という形で表現する活動を行った。



【そば打ち体験】

北広島ふるさと夢プロジェクト 5年生見学・体験活動《八重小学校》

1. 実施した活動について

【期日】 令和2年12月4日（金）

【場所】 大暮養魚場
（北広島町大暮 85-3）

【ねらい】

町内の自然を生かした体験活動を通してふるさとの良さを実感する。また、自然の中での共同体験を通して、課題解決する力や協働する力を養う。

2 活動の様子

大暮養魚場では、施設の見学、炭起こし、アマゴ釣り、そしてアマゴを調理してお昼ご飯にいただきました。同日朝に、総合的な学習の時間に育て収穫したお米を炊き、おにぎりにして持っていきました。「自分達で育てたお米を、自分で釣った魚をおかずに食す」という活動に、週の始めからわくわくしていました。

釣りをする前に、養魚場の方に「命の話」をしていただきました。「人の命に生まれたから魚を食べる。魚の命に生まれたから食べられる」というお話に聞き入り、この後の釣りや調理の際に、「命をいただく」ことの重みを感じていました。

そしていよいよ釣り体験。女子18名男子9名と女子の比率の高い学級ですが、釣り好きの男子が力を発揮しました。エサの付け方、針の外し方など、教え合い助け合う中で絆の深まる活動になりました。

その後の調理と食事の場面では、魚も1つの命であることを改めて実感していました。「大切な命をいただいている」という意識に加え、社会科で学習した「フードロス」に課題意識を持っていた児童から「フードロスなくそう！」と声上がり、魚の骨や頭もよく焼いて完食する姿が見られました。



【 アマゴ釣り体験 】



【 割りばしで内臓を取り出す 】



【 囲炉裏で焼いてご飯のお供に 】



【 骨・頭もよく焼き食す 】

3. 活動を終えて

ねらいとしていた、「共同体験を通して協働する力を養う」ことを達成できる活動となりました。楽しい活動ができた場所として、北広島町のよさが思い出として子供達に残ったと思います。

児童の感想文より

私は、釣りは初めてでした。男子とやっていて、「男子すごっ！」と思いました。なぜなら、素手でも魚をつかんで針を抜くことができていたからです。その後もとても男子が活やくしました。魚を釣るタイミングも教えてくれたのでうれしかったです。

北広島ふるさと夢プロジェクト 5年生見学・体験活動《八重東小学校》

1. 実施した活動について

【期日】 令和2年10月12日（木）

【場所】 大暮養魚場
（北広島町大暮 85-3）

【ねらい】

- 自然を生かした体験活動（魚釣り）や町内の施設（大暮養魚場）の見学を通して、ふるさとの良さを実感させる。
- 自ら釣った魚を調理して食べる体験を通して、命の大切さに気付かせる。

2 活動の様子

【施設見学】

養殖用いけすを囲んで説明を受け、地域の特性を生かした魚の養殖の方法、ヤマメとアマゴの見分け方やえさの与え方など、興味深く聞いたりえさやり体験をさせていただいたりした。

【命の学習】

「私たちは他の生き物の命を体に取り入れることで生きることができている。」と話をいただいた。米や野菜にも命があることを真剣に聞いていた。命の大切さを学んだ。

【魚釣り体験】

練り餌を付けること、水に糸を垂らすこと、釣った魚から針を外すことなど、初めて経験する児童も多く、恐る恐る魚に触れる様子も見られたが、全員楽しく釣ることができた。

【調理～試食】

まだ生きている魚からエラや内臓を取り除いたり、竹串を刺したりすることに抵抗を示す児童もいたが、指導者や友達の様子を見ながら全員が協力して下処理をすることができた。初めての火おこしには興味津々で、「命の学習」の話を聞いたことや、自分で処理した魚であることから、ほとんど残すことなく焼いた魚を食べることができた。おいしいと感じた様子であった。笑顔いっぱいの試食になった。

3. 活動を終えて

同じ北広島町内でも、千代田地域とは自然環境の異なる芸北地域での活動は、児童にとって新鮮なものであった。景観の美しさや水の透明感など、豊かな自然を感じ取ることができた。また、「アマゴの養殖」については、地域の特性を生かした魚の養殖方法に感心をしていた。規模の大きさや魚の数に圧倒されていたようである。

児童からは「魚は苦手だったけど、命をもらっていると考えると食べることができた。」「給食を残さず食べようと思った。」などの感想が寄せられた。「命の学習」をさせていただいてから給食の残菜が減るなど、児童の“食べること”への意識に変化がみられるようになった。

いろいろな配慮をいただき、実施することができてよかったと感じている。



【 施設見学 】



【 命の学習 】



【 魚釣り体験 】



【 調理～試食 】

北広島ふるさと夢プロジェクト 5年生見学・体験活動《壬生小学校》

1 実施した活動について

【期日】 令和2年11月5日（木）6日（金）

【場所】 壬生小学校 ユートピアサイオト
雲月山
(北広島町壬生 北広島町オ乙)

【ねらい】

○町内の自然を生かした体験活動等で地域の方との触れ合いを通してふるさとの良さを実感する。

○友達と自然の中での協働体験を通して、課題解決する力や協働する力を養う。

2 活動の様子

○「北広島町から宇宙へ」という演題で宇宙博士井筒智彦氏の講演を聞いた。講演では、宇宙の話やオーロラの映像や宇宙飛行士選抜試験を体験したりした。宇宙飛行士選抜試験体験では、10分間で鶴をきれいに何羽折れるか、真っ白なパズルづくり、脳内サイコロなどを体験した。これまで、詳しい宇宙の話を知ることができなかったことや宇宙飛行士選抜試験があることに驚き、宇宙に対しての興味関心が深まった。

○ユートピアサイオトで、ジップラインを体験した。ほとんどの児童が初めての体験であったが、インストラクターの方が道具の使い方を、丁寧に説明してくださり、楽しく安全に活動することができた。5つのコースでは、それぞれミッションが出され、児童は果敢にそのミッションに挑戦し楽しむことができた。

○雲月山登山では、芸北高原の自然館主任学芸員の白川勝信氏に案内をしていただいた。「なぜ雲月山山麓に木が生えていないのか」「山焼きがなぜ行われるのか」についての問いについて考えながら登山をすることができた。また雲月山の自然の中で感じたことを一人一人が写真に撮り、自然のすばらしさについて伝える「写真展」を開催する活動へとつなげていくことができた。

3 活動を終えて

児童は、今回の活動を通して、私たちの住む北広島町は自然の中でたくさんの体験や感動を得ることができるということが分かった。また、自然の中での友達との協働体験を通して、友達の励ましや頑張りが自分の頑張りの原動力となることを実感した。さらにこの体験で培った課題解決力や協働する力を学校での学習や生活へ生かすことができることも分かった。素晴らしい講師の先生方や支えてくださったスタッフの方との出会いで多くのことを学び、妨げを乗り越え頑張りを、充実感いっぱいの一日であった。



【宇宙博士 井筒智彦氏の講演】



【ジップライン体験】



【雲月山登山】



【雲月山で写真撮影】

北広島ふるさと夢プロジェクト 5年生見学・体験活動《本地小学校》

1 実施した活動について

【期日】 令和2年11月26日（木）

【場所】 オオアサ電子株式会社（北広島町大朝 3817 - 10）
きたひろネットセンター（北広島町有田 1234）

【ねらい】

- 北広島町内の施設や企業の見学を通して、ふるさとの良さを実感させる。
- 社会科の学習内容（工業や情報通信）と関連させ、見学を通して学習内容の深化を図る。
- 集団での行動を通してルールやマナーを身につけさせ、望ましい生活態度を養う。

2 活動の様子

○オオアサ電子株式会社では、まず会社概要説明を受けた。主要製品の液晶パネルやハイエンドオーディオが、日本中で使われ、高い評価を得ていることを知り、子供たちは大変驚いていた。その後、防塵服を着て本社工場を見学した。徹底した品質管理の中、製品が作られていく様子を実際に見ることで、工業製品が出来上がるまでの働く人の工夫や努力について、理解を深めることができた。最後にショールームで、ハイエンドオーディオの視聴をした。従来型のスピーカーでは表現できない音が再現され、まるで映画館のような臨場感あふれる音から、オオアサ電子の技術力の高さを、子供たちは実感することができた。

○きたひろネットセンターでは、スタジオと編集室の見学をした。事前に、本校5年生が、保育所の年長児を対象とした学校紹介動画を作成していたため、カメラワークなどの撮影のコツや編集作業の進め方など、自分たちが疑問に思ったことや知りたかった情報を、プロから直接聞くことができる貴重な場となった。最後に一人一人、「今思うこと」をテーマにしたスピーチを撮影していただいた。カメラを前にすると、緊張して言葉につまったり早口になったりする児童もいたが、ニュースキャスターのような気分が味わえ、良い経験となった。後日、この様子は「新鮮5」で放送された。

3 活動を終えて

今回の見学を通して、世界に通用する高い技術力を持った会社が北広島町にあることに感銘を受けるとともに、日頃何気なく視聴している「きたひろネット」の番組づくりには、想像以上の苦勞と工夫があることを知った。この見学を終えて、将来北広島町に住み、北広島町で働きたいという思いをもった児童も数名いた。

子供たちにとって、北広島町のよさを実感し、北広島町に対する誇りが高まる大変貴重な一日となった。



【長田社長による会社説明】



【本社工場見学の様子】



【収録スタジオにて】



【撮影や編集のコツを教えてくださいました】

北広島ふるさと夢プロジェクト 5年生見学・体験活動《豊平小学校》

1. 実施した活動について

【期日】 令和2年11月20日（金）

【場所】 芸北高原の自然館、八幡湿原、山麓庵
（北広島町東八幡原 10119-1 ほか）
芸北民俗博物館
（北広島町西八幡原 10870-4）

【ねらい】

町内の自然を生かした体験や町内の施設の見学を通して、ふるさと北広島の良さを実感させる。



【北広島町のふしぎ発見パンフレット】

2 活動の様子

当日、雨を心配して雨具を準備していましたが、雨が降ることもなく、たんぽぽ学級・なのはな学級も合わせ5年生17名で芸北地域に行きました。現地は、紅葉も終盤を迎え、冬らしい景色に変わっていました。バスから降りると、みんな思わず「寒っ！」と声が出てしまう寒さでした。

芸北高原の自然館、八幡湿原では観光協会芸北支部の上手さんがとても分かりやすく説明をしてくださいました。北広島町のツキノワグマのはく製は間近で見ると迫力がありました。湿原の細い木道を列になって歩きながら、湿原や湿原の植物等について学びました。湿原の生態系や聖湖の歴史などとても勉強になりました。

昼は、山麓庵を使わせていただき、弁当をほおばりました。寒かったけれど昔の民家での生活を思いながら、楽しいひとときでした。

芸北民俗博物館では生涯学習課文化係の柴田さんが説明してくださいました。みんなでいろりを囲んで温まりながら、聖湖の歴史についてのお話を聞きました。また、樽床地域の昔の暮らしについて生活用具などを実際に見ながら学びました。

帰りにはバスから聖湖を見学しました。

豊平だけではできない体験をして、ふるさと北広島の良さをまた1つ実感することができました。



【晩秋の八幡湿原】



【芸北高原の自然館にて】



【いろりを囲んで】

3. 活動を終えて

（夢プロを終えた児童の川柳） 夢プロで ふるさとのすごさ 知れたんだ
湿原は そこにしかない ものがある

普段何気なく過ごしていると気づけない「ふるさとのよさ」をたくさん知ることができた1日になりました。学校に戻ってからは見学したことをパンフレットにまとめて、「ふるさとのよさ」を改めて学び、記録に残しました。

「北広島ふるさと夢プロジェクト」事業を振り返って

北広島町内小学校

「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」をめざして実施している『北広島ふるさと夢プロジェクト事業』の6年目を終えた。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大を受けて、計画を変更して実施することとなった。5年生の『民泊体験』～北広島のよさを満喫しよう～事業は中止とし、各学校で北広島町のすばらしさ・よさを学んだり、体験・見学したりする活動となった。6年生の「夢と希望を乗せて、ロケットを飛ばそう」事業は、リモートで各学校と北海道の植松電機 植松努先生（代表取締役）を結んでの講演会となり、ロケットの製作と発射は各学校での実施となった。

6年については、参加児童・学校職員の実施後のアンケート等を分析すると、全体的には、「児童に夢を持たせ、生き方を深めさせるよい講演会であった」「ロケット製作と発射を通して、児童は貴重な体験をお互いに協力する場面を設定できてよかった。」など、目的通りの成果を上げることができている。

また、5年については、「町内での多様な体験・見学学習を通して、北広島町のすばらしさを実感したり魅力を再発見したりすることができた。」と考えている。ふるさと北広島町や自分の生き方について考えを深めることができている。

6年生に実施したアンケートでは、「北広島町が好きである→93.4%」「将来、ふるさと北広島町や住んでいる人のために、自分のできることをしていきたい→91.4%」「将来、北広島町に住みたい→62.7%」という肯定的回答であった。昨年同様に高い数値となっており、ふるさと北広島町への愛着心が育ってきていると言える。

肯定的な評価が高いことは、各学校のふるさと学習の充実に加えて、本計画を変更して実施した今年度の事業が一定の成果を上げていることの裏づけと言える。新型コロナウイルス感染禍の中、企画・予算立てをしてくださった北広島町・北広島町教育委員会・町内関係諸団体・活動を支援してくださった多くの関係者に感謝したい。

来年度の実施については、感染状況の今後の推移により、見通しが持てない状況にある。また、授業時間の確保、教育内容の精選・見直し、教職員の働き方改革も推進していかねばならない状況もある。

ただし、5年・6年の事業は、学校間の児童の絆づくり、将来の北広島を担う人材の育成には、とても効果的な事業であると考えてるので、「北広島ふるさと夢プロジェクト」に推進にあたっては、そのことを踏まえた取組になるようにしていく必要がある。

以下、プロジェクトの実施に係る成果（学校の思いと考え）と課題（改善点等）をまとめると次のようになる。

今年度のプロジェクト実施(6年)に関わって(学校職員)

1. 新型コロナウイルス感染禍の中、リモートで講演会を実施したことについての思いや考えについて

【よかったこと】

- 授業時数の確保の心配がある中で、移動時間が必要無いということは、大変良かった。
- リモートでも、町内の仲間とつながることができるのだということを実感することができた。
- 広い体育館で直接話を聞くことも良い経験であるが、テレビ画面で植松さんの表情を大きく見ながら話を聞けるのもより思いが伝わってきた感じがした。
- 移動時間などがなく、事前の準備も含め、落ち着いて植松さんの話を聞くことができた。
- 体育館では、席が後方の児童は植松さんの表情が見えにくいことがあったが、リモートで行うことで、植松さんの表情等をしっかり見ながら聞くことができ、とてもよかった。
- 最後に質問の時間をとっていただき、実際に植松さんと話をさせていただく機会がありよかった。
- 植松さんの話をリモートではあっても聞くことができた。
- どんな方法であれ、植松さんの話を聞くことができたことがよかった。植松さんの話を聞けたか聞けなかったの差は、児童のこれからの成長を考えると少なからず影響があると思う。
- 移動時間がかからないため、その分、事前指導、事後指導が行いやすかった。
- 植松先生の「人の出会いには意味がある」という言葉が、リモートで講演会を行ったことにより、重みが増したように感じた。

- 子供たちに「web でのビデオ通話」を経験させることができた。生活様式が変わる中で貴重な経験になった。
- コロナ禍の中でも、画面を通じて、千代田ブロックの小学校の児童が顔を合わせられたことがよかった。
- リモートでの実施であり植松先生の話の臨場感を持って聞くことができるか心配だったが、千代田運動公園体育館で講演会を聞く時より、植松先生の姿を身近に大きく、表情も見とることができ、児童は引き込まれるように話を聞くことができてよかった。質問をする場面等では、各学校の様子が映し出され、町内6年生全員が講演会を聞いているという一体感も感じられた。リモートによる講演会は、有意義で効果的であったと考える。開催を決定された教育委員会の英断と植松先生のご協力に感謝をしている。
- この状況の中でも、北海道と北広島がリモートで結ばれ、植松先生の話聞き、夢を実現していこうという明るい展望を子供たちが持つことができた。
- 苦しくてもへこたれず、くじけないしなやかな心（レジリエンス）を育てようと考えている本校にぴったりの内容の講演会だった。
- 移動時間を省けたこと、コスト削減、リモートであるがゆえに植松さんの細かな表現や所作まで見ることができたことは大きな強みである。
- 普段の教室でなじんだ席で講演を聞くことができ、児童の反応も例年と遜色なかった。

【課題と想ったこと】

- ハウリングが起こり、話の内容が聞き取りにくい部分があった。
- 植松さんの講演とロケット製作のつながりを指導者が理解して児童に伝えていたかが気になる。
- 生で聞く講演の良さや北広島の同学年が一堂に会する迫力を感じられないことは残念ではある。

2. 植松先生の講演会についての感想・思い、児童の反応について

- 分かりやすい言葉で話をしていただいたので、児童は興味をもって最後まで集中して話を聞くことができた。
- 学校で行っている学び方につながる内容だったので、児童は、自分たちが行っている学びが力になっているということに改めて気づくことができていた。
- 何回聞いても興味深く、面白い。自分に自信のない児童にとって、考え、価値観を転換できるきっかけになるお話であったと思う。
- 児童は植松先生のことを「雲の上の存在みたいにすごい人」という捉えではなく、自分と同じようなことに興味をもっておられることから親近感をもってお話を聞いた。それにより、自分も何かできるのではないかと思っていた。
- 植松さんがスライドや映像を見せながら話をしてくださり、児童はとても集中して話をきいていた。植松さんの話が終わった後には、教室の中で児童同士、植松さんの話の中で印象に残った言葉などについて話をしていた。
- 児童は植松さんが話をしてくださったたくさんのエピソードと自分の生活を関連させて話を聞き、今後の生活に生かしたいことや、大切にしたい言葉などを感想の中に書いていた。
- 「夢はあきらめなくてもいい」「夢はいくつあってもいい」などという言葉、1つ1つに子供たちは非常に感銘を受けていた。
- 児童は真剣に聞き入っていた。自分と思いが重なるところなどではうなずいたり、同意のつぶやきをしたりしていた。
- 将来の夢が2つあり、どちらをあきらめるか悩んでいた児童が植松さんの話を聞き、「両方の夢に向けてがんばろう」と決心することができたと言っていた。
- アンケートの【(1) 植松先生の講演会の話は、夢と希望を持つことができるよい話だった。】の項目にすべての児童が「よくあてはまる」と回答しており、実り多い講演会であった。
- 植松先生の話が分かりやすく、難しい内容でも子供たちが話の内容を理解しながら聞くことができた。
- アンケートでは、「植松先生の講演会の話は、夢と希望を持つことができるよい話だった。」という項目に、児童全員が「よくあてはまる」と回答をしていた。夢を多く持つことの大切さ、あきらめずに目標達成のために粘り強く頑張ることの大切さなどの話について、多くの児童が感銘を受けていた。
- 植松先生は、自分の子供の頃の話や生き方を、わかりやすく交えて話をされ、児童は集中・共感して話を聞くことができていた。児童自身が自己の生き方や考え方について振り返ることができるような講演内容で、今後の生き方の参考になる大変よい話であった。
- みんな真剣な様子で植松先生の話に聞き入っていた。植松先生の言葉がそれぞれの児童の心に響いたようで、有意義な時間を持つことができた。

- 児童に分かりやすい言葉で講演いただいた。
- 印象に残った名言集などを作成すれば、より深い思い出となると考える。
- 児童の反応は非常によく、最後まで集中して話を聞いている子が多かった。

3. 各学校でロケットの製作・発射をしたことについての感想・児童の様子について

- 説明書が大変分かりやすく、児童は楽しそうに製作していた。
- 新しい発射台を用意していただいたので、スムーズにロケットを発射させることができた。また、昨年度よりも高く上がり、感動が大きかった。
- 児童が8名と少人数であったこともあり、テレビ画面が見えにくいということがなかったのも、リモートであってもライブ感があった。体育館での実施よりも距離が近いので見やすかったように感じる。
- 昨年度体育館で実施した時には、「初めて会った他校の児童に話しかける」という、児童によっては大きなハードルに挑戦させるよい機会だったが、今年度のような自校での製作では話しかけやすい友達に相談するだけで終わってしまう。しかし、昨年のように実施した場合であっても、全く話しかけずに終わる児童や知っている友達とだけ相談し合う児童が多くいたことを考えれば、取り組ませ方次第で価値ある活動にできると思う。
- 自校で発射すると、他学年にも見せることができ、感動を共有できる。
- 例年と同様、自分たちで説明書を見ながらロケット製作をした。児童同士、アドバイスをし合いながら作ることができた。
- ロケットを発射するごとに、児童が歓声を上げており、自分が製作したロケットが実際に飛んでいくことに感動していた。発射後の児童のアンケートに「自分で作成したロケットが飛んでいく様子を見て、夢が叶う気がした。」と書いている児童がいた。
- 新しい発射セットを各校にいただき、非常に助かった。
(前回いただいた発射台が、老朽化をしていたので。)
- 手作りロケットがさらに改良されており、非常によく飛び、子供たちは大喜びであった。
- 製作では、昨年度までと同様に指導者からの指示はなしで、まずは自分たちの力で行わせた。友達同士で聞きあったり教えあったりする姿が見られ、自分たちで課題解決ができていた。
- 大朝小中学校合同地域公開において、大勢の方々に見ていただく中でロケットの発射を行った。多くの人に見ていただく中で、夢プロのアピールができたと思う。
- ロケットの製作では、手順の書かれた説明書を丁寧に読み、失敗しないように打ち上げたいという気持ちが見られた。
- ロケットの打ち上げでは、集中して担任の話を聞き、主体的に活動に取り組む児童の姿が見られた。
- ロケット製作の際には、難しい作業などがあったとしても、自分たちで協力して乗り越える児童の姿が見られた。児童は、発射の様子を想像して楽しそうに意欲をもって取り組むことができていた。
- 児童は、自分が製作したロケットが噴煙を出し空高く打ち上がる様子に歓声の声をあげていた。打ち上げ成功に大満足の様子であった。他の学年の児童も、興味深くロケットの軌跡を追っていた。自分もロケットを製作して打ち上げたいという思いを数多くの児童が口にしていた。当日は風のほとんどない日であったが、時間帯によっては打ち上げのタイミングを考えねばならなかった。本校のグラウンドは、国道、工場・会社に隣接しているため、グラウンド外へ飛んでいかなないように注意しなければいけない状況があった。
- ロケットの製作は、わからない所をそれぞれ声を掛け合って作ることができてよかった。
- ロケットは、昨年度のものよりよく飛んだ。打ち上げの様子を全校児童で見ることができたのもよかった。児童は、あんな小さなロケットが本当に飛ぶのだろうかと心配していたが、空高く打ちあがった様子を見て、驚いていた。
- 学級実態や学校行事等の状況にあわせてロケット製作や発射に取り組めるので、無理が少なくてよい。
- 児童は説明書を見ながら、また、教え合いながらロケット製作ができた。
- ロケット発射台を新調していただき、また、他校からも1台借用できたことで、人数が多かったにもかかわらず全員が短時間で打ち上げることができた。
- ロケットは例年以上に高く上がり、また、当日晴天だったので青空に映え、印象に残る打ち上げとなった。
- 全校で打ち上げを見ることができ、下学年は、ロケットへの期待を膨らませた。

お わ り に

北広島ふるさと夢プロジェクトは、「ふるさとを知り、ふるさとを愛し、将来ふるさとに住みたい、ふるさとに帰りたくなる子どもの育成」を目的としてスタートし、6年が経ちます。これまで、地域のひと・もの・ことに関する学習や町内企業・施設での体験学習を通し、近隣学校の同学年同士の親睦を図る取組を行っています。本町の豊かな自然・歴史・文化を生かし、児童生徒一人一人の郷土への理解と愛情を深める学びを広め、これを通してふるさとに誇りを持ち、たくましく生きる子供の育成を目指しています。

しかし、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大により学校が臨時休業になるなど、子供たちの置かれた状況も大変厳しいものとなりました。そのような中でも、どのようにして子供たちの学ぶ機会を守るかを考えてきました。人との接触が制限される中で事業の実施方法を模索し、例年好評いただいている株式会社植松電機社長の植松努さんによる、小学6年生を対象にした「夢と希望をのせてロケットを飛ばそう」はオンラインでの講演会実施となりました。

コロナウイルスによって社会状況は一変し、より予測困難な時代へと変わりつつあります。その中で改めて、人と人のつながる社会の必要性を考えるとところです。コロナ禍は大都市を中心とした社会構造に大きな疑問を投げかけました。郷土愛の創造はよりいっそう重要な課題になりつつあります。新しい生活様式のなかでも、地域の元気な大人たちと様々なかたちで触れ合うことでふるさとへの愛着と誇りを醸成し、将来の地域を支える力につながればと思っています。今後も、子供たちが予測のつかない社会をたくましく生きぬく力を身につけるための学びを進められるよう、地域・保護者の皆様には引き続きご理解、ご協力を賜りたく存じます。

令和3年3月

北広島ふるさと夢プロジェクト応援隊
副隊長 池田 庄 策
(北広島町教育委員会教育長)